

景況レポート

(12月分・情報連絡員59名)

製造業・非製造業ともに 景況DI値が大幅に悪化

【概況(全体)】

12月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが1.7%(前回調査8.3%)、「悪化」が64.4%(同55.0%)で、業界全体のDI値は-62.7となり、前月調査との比較では16.0ポイント下回った。

全国及び東北・北海道ブロックにおいてもDI値が前月調査に比べ悪化した。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、各種GoToキャンペーン事業が中断されたことに伴い、年末年始等1年で最大の繁忙期を失った事業者も多く、幅広い業種で影響を受けた。

【業界別の状況】

製造業では、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、受注数量や工場の稼働が減り、ほとんどの業種で悪化した。

また、非製造業では、大都市圏での新型コロナウイルス感染者数の増加に伴うGo Toキャンペーンの適用停止や年末年始の帰省控え等の影響により、年末商戦が期待外れとなり、悪化割合が増加した。

<全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較>

	秋田県	全 国	東北・北海道
全 体	-62.7	-56.4	-55.9
製 造 業	-83.3	-60.8	-62.5
非製造業	-48.5	-52.9	-52.2

<景況天気図>

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業							
非製造業							

【凡例】

快晴 30以上
 晴れ 10以上 30未満
 くもり △10以上 △30未満
 雨 △10未満 △30未満
 雷雨 △30以下

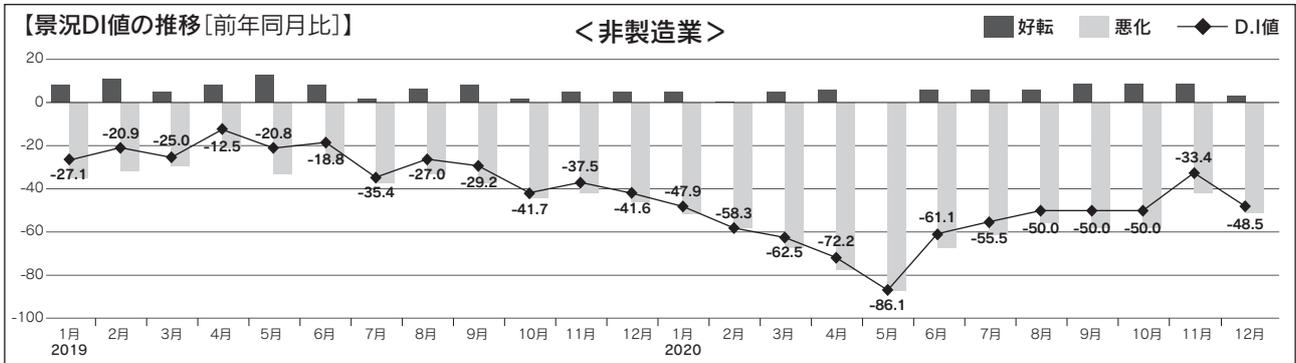
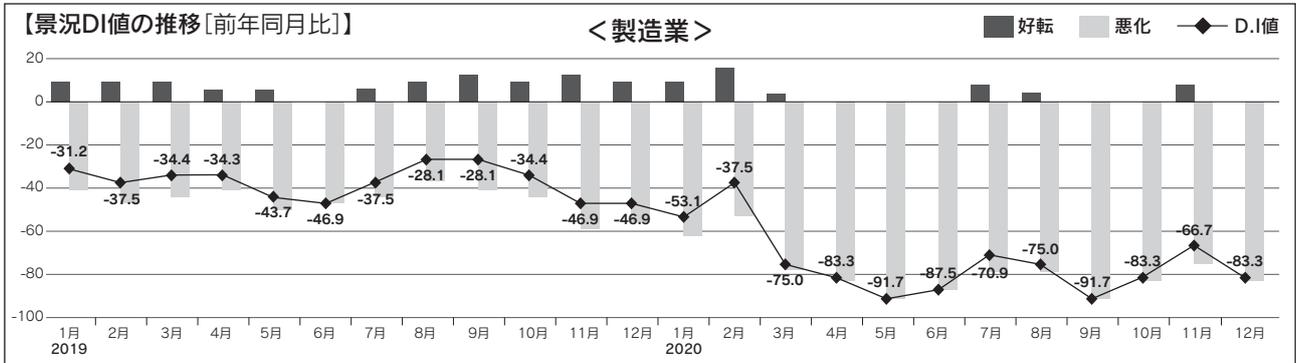
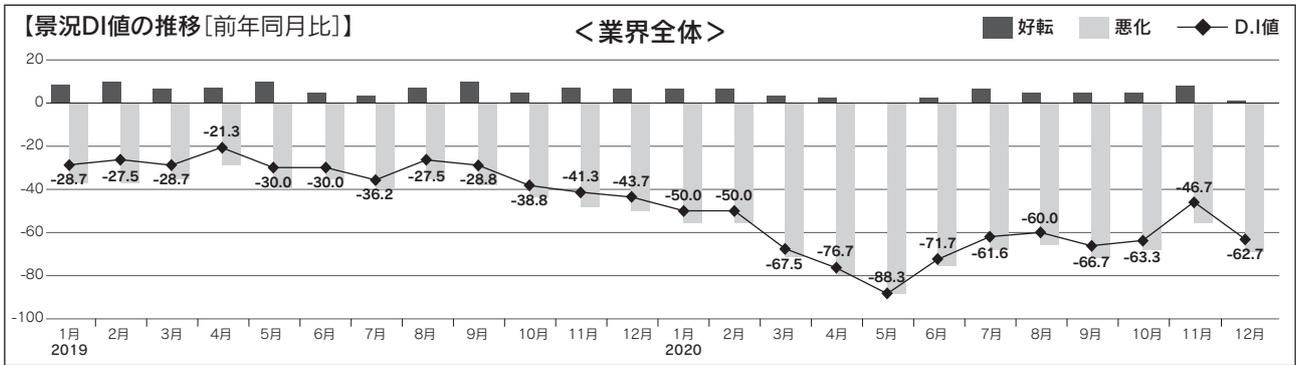
【天気図の見方】
前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

【業界の声】 ～製造業～

(回答数：24名 回答率：100%)

食料品 (菓子)	クリスマスケーキの受注数は前年を上回る場所もあったが、年末年始は帰省客の減少により、厳しい状況であった。
食料品 (精穀・製粉)	帰省客の少ない巣ごもりの年末年始となるなど、例年にはない状況の中、各商品の売上の増減予想が難しく、製造・在庫管理に気がついた。
繊維工業 (繊維)	コロナ禍で百貨店を中心にアパレル商品の売上が大幅減となっており、それに伴って組合員企業の受注も昨年に比べ大幅に落ち込んでいるのが現状である。医療系ガウンの依頼も出てきたが、工賃等の条件が非常に厳しいものとなり、受注できても収益にならず、工場を稼働させることが精一杯である。(中央地区)
木材・木製品 (一般製材)	製品販売高は、前年同月比で7.2%減少した。多少の持ち直し感がある一方で、冷え込みが厳しく、原木(丸太)が凍結し製品の生産量は減少している。原木在庫が恒常的に不足しており、1月～2月の入荷状況が心配である。
木材・木製品 (外材)	令和2年は年間住宅着工数が前年に比べ1割落ち込んだが、12月以降原木の品薄感があり木材需要の荷動きはある一方で、今後の状況は新型コロナウイルスの影響等により引き続き不透明感が続いている。スギ原木については秋需要後の品薄感があり、堅調な荷動きがある。また、原木価格を下支えしてきた合板用原木については通常体制に戻っているが、引き続き需要の見通しには厳しさが予想されている。
窯業・土石製品 (生コンクリート)	出荷数量は前年同月比80%前後となり、4～12月の累計では94%前半となった。今年度は590,000m ³ (前年同月比93.7%)前後に落ち着くと思われるが、来年度も今年度と同様、590,000m ³ 前後になる見通しであり、依然として各組合員企業においては厳しい経営が予想される。
鉄鋼・金属 (鉄鋼)	新型コロナウイルスが終息することなく、ますます感染拡大が止まらない状況が続いており、工場の稼働も低い状態で推移している。新規物件及び見積依頼も極端に少ない状況となっており、この状態がしばらく続き、先行きが全く見通せないことを危惧している。
その他の製造業 (漆器)	大雪やGoToキャンペーンの停止等の影響もあり、中旬以降は来客数が激減した。また、体験や見学予約のキャンセルもあり、厳しい年の瀬となった。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：35名 回答率：97.2%)

卸売業 (青果)	前年同月比98.17%で推移した。12月は、中盤まで商品の動きが思いのほか悪い状態が続く、期待した後半のお正月需要も終盤の悪天候が影響し、期待値に至らなかった。飲食関係の業務用需要は、10月~11月にかけて回復の兆しが見られたが、新型コロナウイルス感染者数の全国的な増加により悪化の方向に転換し、結果的に前年よりダウンする事となった。
小売業 (共同店舗)	イベント等の開催により一定数の集客・売上は得られたが、最繁忙期の年末においては昨年と比較し客足は減少した。
小売業 (自動車)	12月の新車販売台数は、登録自動車1,511台(前年同月比95.3%)、軽自動車1,378台(同109.8%)、合計2,889台(同101.7%)となった。
小売業 (石油)	ガソリンの小売価格は1ℓあたり130円60銭で前月比1円30銭の値上がりとなった。軽油は114円で前月比1円30銭、配達灯油18ℓは1,399円で前月比19円それぞれ値を上げた。
商店街	11月25日に川反でクラスターが発生、当商店街の飲食業も影響を受け、売上高が減少傾向となった。他業種も依然として厳しい状況が続いている。(秋田市) 恒例の年末セールも新型コロナウイルスの影響で盛り上がりには欠け、人出の減少もあり、各店苦戦状態で年の瀬を迎えた。新年からは新しい生活様式に対応した小売の在り方を組合として全加盟店と協力して創造する必要を感じている。(大館市)
サービス業 (旅行)	国内個人旅行が前年同月比10%弱、海外個人旅行は0となった。県プレミアム宿泊券、GoToキャンペーンの影響で少し上向いてきた期待感が、ここにきて中止となり年末年始の取消で大打撃となった。新型コロナウイルスが終息しない限りどうにもならない感じである。
建設業 (電気工事)	受注件数も少なく、公共施設などの大きな物件も少なかったため、前年同月比80%程度の取扱高となり、新型コロナウイルスの影響も否定できない。(中央地区)
運輸業 (トラック)	12月は例年繁忙期であるが、今年は荷動きがあまり良くなかった。それでも11月よりは持ち直したため、前月比で売上は増加傾向となっており、収益も微増となっている。一方、前年同月比では、多少の増減はあるものの、ほぼ横ばいとなっている。12月は燃料価格が大幅に値上がりしたため、収益は伸びず、1月も値上がり見込みとなっている。(県南地区)